

第2回 渡川流域を対象としたタイムライン検討会

議事要旨

日 時：平成 28 年 3 月 16 日（水） 13:00～15:00

場 所：四万十市立文化センター 1 階大会議室

議 事：

- (1) 開会
- (2) 第 1 回検討会の議事要旨
- (3) タイムラインについて
 - ・タイムラインの目的と想定ハザードについて
 - ・ワーキンググループの報告について
 - ・タイムラインの運用について
 - ・検討会の次年度以降の活動について
- (4) 閉会

■開会挨拶【高知大学 防災推進センター 副センター長 原忠座長】

12 月 4 日の第 1 回検討会を皮切りに、これまで避難と水防・交通ワーキングを 3 度開催しタイムラインの検討を行ってまいりました。渡川のタイムラインは、過去の被害発生状況を考慮して、河川が氾濫する前に内水氾濫が発生するというより厳しいハザードを想定しており、また対象地域では洪水に伴い長期的に湛水し浸水深も深くなる特徴が示されました。

そのような中、各機関が人命や財産を守るために何ができるかということを考え、また機関間の連携について検討してきましたが、次年度以降も洪水に伴う犠牲者ゼロを目標に、より議論を深めて行きたいと考えています。

本日も委員の皆様方には、たくさんの意見を頂戴したいと思います。

■第 1 回検討会の議事要旨について【事務局】

事務局より、第 1 回検討会の議事要旨について説明がなされました。

委員からは、修正意見がありませんでしたので、正式な議事要旨とされました。

■タイムラインについて タイムラインの目的と想定ハザード【事務局】

事務局より、タイムラインの目的と想定ハザードについて説明がなされました。

委員からは、「鬼怒川の洪水被害の映像を見て、もはや人ごとではない。堤防が決壊する前に避難させることが必要であるが、現実には難しい。」などの意見をいただきました。

四万十市副市長) 中筋川・後川・四万十川のどこが破堤するか想定はしているのか。また、**3 河川同時に破堤することは現実的な想定であるのか。**

事務局) どこが破堤するかについては限定することはできない。3 河川の同時破堤については、絶対に起きないとは断言できないため、**想定される被害の最大として対応を検討しておくべき**と考えている。中村河川国道事務所では重要水防箇所として洪水時に危険が予想される地点を公表している。また、平成 28 年の出水期に向けて破堤点毎の浸水エリアがわかる情報を公表する予定である。

四万十市副市長) 雨が 600 ミリ降れば、堤防が決壊してこのような浸水状況になるのか。
事務局) 降雨の状況ではなく、堤防が決壊したらこのような浸水状況になると考えて頂きたい。
事務所長) 600 ミリ雨が降ったら決壊するというわけではない。自身の近 2 年の経験から、渡川の
広域な集水面積や最近の雨の降り方を勘案すると、決して安全とは言い切れないと思う。
四万十市市長) 鬼怒川の決壊に伴う映像等を見て肝を冷やした。もはや他人事ではない。決壊前に
全住民が避難していれば良いが、現実には難しい。

■タイムラインについて ワーキンググループの報告【事務局】

事務局より、ワーキンググループの報告について説明がなされました。

委員からは、「車両等を避難させる必要があるが、どこに避難させるのか関係機関で調整する必要がある。」「優先的な送電や移動式公衆電話の設置については、状況によって対応する。」「極力、停電しないような取り組みを啓発していただきたい。」などの発言をいただきました。

事務所長) 市民病院は業務継続計画を考慮した上で避難しないと判断しているのか。

事務局) 浸水しない 3 階以上に居る入院患者を避難のため施設外に移動する方が危険な場合も想定されるため、籠城という判断をしている。ただし、施設として耐水化を図っていききたいとの発言があった。移動させる避難を選択することになれば、今後ワーキングで検討することになる。

四国電力(榑中村支店) 復旧用車両を高台に避難させる必要があるが、避難先をどこにするのか関係機関で調整する必要がある。

事務局) 高知西南交通では下田運動公園に車両を避難させた経験があるという話を聞いた。特に車両の避難先が定められているわけではないので、各機関で検討が必要である。

四万十市市長) 対象地区では高齢者施設が多いこともあり、避難させるためには事前の周知が必要となる。一昨年前の避難勧告発表時にはほとんどの方が避難しなかった。どうやって市民を避難させるかは課題である。

气象台) 従前のように垂直避難を促す情報を出すのか、それとも広域避難を促す情報を出すのか。どう判断するのか。

事務局) 鬼怒川の事例にあるように、垂直避難者は救助を行う必要がある。また、避難する対象者には高齢者など要配慮者が多く、雨や風が強くなる前に早期に避難を完了させたいという四万十市の意向もあり、タイムラインとしては 24 時間前に広域避難勧告を出すという整理を行った。

四国電力(榑中村支店) 広域避難を実現した場合のタイムラインに記載された、-12H 時点での避難所等への優先送電であるが、停電していないタイミングでの対応は難しい。停電が発生した後の対応になるので項目を変更していただきたい。

原座長) 事務局で資料の修正を行うこと。

气象台) 最悪の状態を想定して 3 河川が破堤する想定ということだが、1 河川破堤についてはこの計画では対応しないのか。

事務局) 現実的にどこまで対応できるのか訓練等を通じてタイムラインの見直しを図っていきたい。

原座長) タイムラインを考える上で气象台からの情報は大きなトリガーになっている。

四万十市副市長) 市の指定緊急避難場所は広域的に点在しているが、山間地の避難先に人を移送することは難しいと思う。

原座長) 避難先が本当に利用できるかは次年度以降検討していくべき。その際には基準に基づく道路通行止めの対応が早期に行われることも考慮すべきである。

幡多土木事務所) 流域雨量 50mm/h または累加雨量 200mm で通行止めを行う。山間地の避難先は孤立の恐れがあるため、利用しない方が良いと思う。

いろは館) 当初は木俣病院を避難先としていたが、浸水深が深いということを知り広域避難をしなければいけないという認識になっている。ただし、どこへ向かえば良いのかは医師会を交えて同様の施設と共に協議を行っていききたい。

四国電力(株)中村支店) タイムラインを継続して検討する上で、施設更新の際には電源分割を行うことで耐水化を図っていただきたい旨、啓発していただきたい。

事務局) これまでタイムラインの検討に出席頂いた機関の方は理解していると思うが、その他の方々へは行政に周知をお任せしたい。

事務所長) 国土交通省では四国電力(株)から発言があったように、タイムラインの検討を通じて様々な関係者から水害対策の議論が巻き起こることを切望している。次年度以降も継続して議論していききたい。

四万十市副市長) 広域避難の具体的な対応については、宿毛市や黒潮町への避難も含め、課題を踏まえて考えて行かねばならない。

NTT) 事前の衛星携帯電話の貸し出しが可能。移動式公衆電話の設置等について、公衆電話は数台しかないためどの避難先に設置するのか情報を頂きたい。また、電話についても更新時には浸水しない場所に設置してもらおうよう啓発していただきたい。

土佐くろしお鉄道(株) 住民の避難輸送の協力は、営業停止となり運休になった後であれば協力することができる。

■タイムラインについて タイムラインの運用【事務局】

事務局より、タイムラインの運用について提案がなされ、今後の運用体制や情報共有について、承認をいただきました。

气象台) タイムラインの中でどう行動するのか決まっていない部分があると思うが、どう対応するのか。

事務局) タイムラインのチェックシートは、黒文字、赤文字、青文字で記載を行っており、黒文字は現行の防災計画に記載のある防災行動、赤文字は今年度検討を行って確認できた防災行動、青文字は今後に向けて検討が必要な防災行動というように、現段階における実行可能性を示している。今後に向けて検討が必要な防災行動の運用については、今後、調整させていただきます。

■タイムラインについて 検討会の次年度以降の活動【事務局】

事務局より、検討会の次年度以降の活動について提案がなされ、次年度以降も検討会を継続し、残された課題の解決に向けて検討していくことを承認いただきました。

■総括【高知大学 防災推進センター 副センター長 原忠座長】

川を軸に関係機関が集まり、短い期間ではありましたが意見交換を行い、こうして現実的な対応を整理し、情報共有を図るために運用を行う運びとなりました。今後は課題を洗い出しながらより良いものにしてゆくと共に、四国内の河川、ひいては日本全国の河川のモデルケースとしての発展も考えられると思っております。是非、皆様方のご協力を、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

■閉会

以 上